

《入選》

いじめについて

中央中学校 二年

塩野 しおの 里桜 りお さん

私はいじめについてよく考えることがあります。それは、どこまでいったらいじめになってしまうのかということ。

調べてみるといじめとは、当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもので、具体的には、冷やかしからかい、悪口や嫌なことを言われるなどが多く当てはまるそうです。つまり被害者側が苦痛を感じたら、加害者側がそのようなつもりがなくても、いじめになってしまうのです。しかし、

苦痛を感じたからといって、被害者側がそのことをだれかに相談したり、言わなければ、当事者以外みんないじめだと断言するのは難しいでしょう。そこで重要なのがそれを見ている傍観者です。なぜなら加害者はいじめをしていると自覚しているいな

いに関わらず言うことはないでしょうし、一番客観的に判断して大人などに相談しやすいのは傍観者だからです。そこで難しいのが私が初めに言った、いじめはどこまでいったらいじめなのかということ。

例えば、具体例でできた「からかい」です。学校でもよく友達をからかっている様子を目にしますが、それは仲が良いからこそでもあると思います。他の人から見るといじめに見えて、当事者からするとただ話しているだけだったり、またその逆で他の人から見ると仲が良いな

と思う光景に見えても、当事者の被害者は苦痛に感じているということもあるかもしれない。「からかい」だけでも一人一人考え方が違うため、いじめと判断するのは難しく、傍観者はこれは大人に相談したほうがいいのか、でもそれほどでもないのかと考えてしまう場面だと思います。私もこのような立場なら、同じように悩んでしまふと思います。でももし、悩んだ結果、大人に相談せず、からかいがどんどんひどくなつて被害者が不登校などになつてしまったとき、とても後悔すると思います。なので、私は、いじめなのかなと悩むくらいだったら、もう相談してしまつたほうがいいのかと思いません。

私はこのようなことから、いじめはどこまでいったらいいいじめなのかはやっぱり被害者しかわからないと思